研 究 業 績 一 覧

2008年10月１日から2009年９月30日までの研究業績を，氏名の五十音順に著書，論文，研究発表の３項目に分類し，掲載した。

大 塚 容 子　　外国語学部　教授

【著　　書】

〈共著〉

・『大学生のための敬語入門』三恵社　179−200頁　2009年９月

【論　　文】

・「母語話者と非母語話者による会話におけるあいづち―日・英語会話の比較―」『岐阜聖徳学園大学紀要〈外国語学部編〉』第48集　95−107頁　2009年２月

【研究発表】

・“Overview of Characteristics of Japanese Conversation and Rapport Building”, Panel “Rapport Development Strategies in Japanese Conversation: why does intercultural communication succeed or fail?” The 11th International Pragmatics Conference　メルボルン大学　2009年７月

・「日本語・英語のインタラクションの特徴」大学英語教育学会第48回全国大会待遇表現研究会企画シンポジウム「日本の英語教育への CEFR 導入における課題―異文化適応能力の育成に向けて―」北海学園大学　2009年９月

河原﨑やす子　　外国語学部　教授

【論　　文】

・「アジア系アメリカ文学とポストコロニアル批評―フィリピン系アメリカ文学から考える―」『AALA Journal』No. 14　50−60頁　2009年３月

熊 沢 秀 哉　　外国語学部　准教授

【論　　文】

・「リルケとエジプト」『岐阜聖徳学園大学紀要〈外国語学部編〉』第48集　１−14頁　2009年２月

・「最後期のリルケにおける〈二重性〉について」『ドイツ文学研究』第40号　67−84頁　2008年10月

Ronald Crosby　　外国語学部　専任講師

【論　　文】

・「Effects of Bilingualism on Congnitive Abilities」『岐阜聖徳学園大学紀要〈外国語学部編〉』第48集　15−21頁　2009年２月

・「外国語の学習が一般科目に及ぼす影響」『岐阜聖徳学園大学教育学部教育実践科学研究センター紀要』第８号　239−250頁　2009年２月

黄　華 珍　　外国語学部　教授

【論　　文】

〈共著〉

・「論日本學者對中國學研究的貢獻和作用―以金谷治、伊藤漱平等當代著名學者為例」『漢学研究與華語文教學』萬卷樓出版　55-70頁　2009年 9 月

【研究発表】

・「日本人学者の中国学研究への貢献及びその役割を論ず――現代の著名学者金谷治・伊藤漱平等を例として」「語言・文学・文化交流と国際交流」国際シンポジウム　玄奘大学　2009年 5 月

角 田 信 恵　　外国語学部　教授

【著　　書】

〈共著〉

・『長い十八世紀の女性作家たち：アフラ・ベインからマライア・エッジワースまで』英宝社　2009年

・「19世紀イギリスにおける男性性の構築と脱構築のポリティクス」平成18～20年度科学研究費補助金研究成果報告書　35-64　121-122頁　2009年 3 月

【論　　文】

〈プロシーディングス〉

・「オスカー・ワイルドと『女の世界』」『オスカー・ワイルド研究』第10号　2009年

中 島 利 郎　　外国語学部　教授

【著　　書】

〈共著〉

・『現代中国への道案内Ⅱ』白帝社　166-192頁　2009年 9 月

〈単著〉

・『台湾地方行政総目・附人名索引』緑陰書房　170頁　2009年 9 月

【論　　文】

・「日本統治期台湾文学研究　日本人作家の系譜―詩魂の漂泊・長崎浩（台湾編）」『岐阜聖徳学園大学紀要〈外国語学部編〉』第48集　61-79頁　2009年 2 月

新 島　翠　　外国語学部　教授

【著　　書】

〈翻訳〉

・『中国女神の宇宙』（共訳）　勉誠出版　545頁　2009年 4 月

久 野　　誠　　外国語学部　教授

【著　　書】

〈共著〉

・『大学生のための敬語入門』三恵社　1－3　43–177頁　2009年 9 月

森　　英 樹　　外国語学部　専任講師

【論　　文】

・“The Tripartite Function of Imperative Forms in English and Japanese”『岐阜聖徳学園大学紀要〈外国語学部編〉』第48集　37–48頁　2009年 2 月

・“The *But*-Conditional Imperative: An Emergent Construction” *Osaka University Papers in English Linguistics* 13　83–101頁　2009年 3 月

【研究発表】

・「意味変化の構文レベル―日英語の命令文を中心に」阪大英文学会第41回大会　大阪大学　2008年11月

横久保義洋　　外国語学部　准教授

【研究発表】

・「慈雲尊者の歴史意識――『春秋』を中心として」「語言・文学・文化交流と国際交流」国際シンポジウム　玄奘大学　2009年 5 月

吉 村 敬 子　　外国語学部　専任講師

【論　　文】

・Complexity of Polarity Sensitivity: Japanese -demo『岐阜聖徳学園紀要〈外国語学部編〉』第48集　49–59頁　2009年 2 月

外国語学部紀要投稿細則

（目的）

第１条　この細則は、紀要委員会規程第２条第２項に基づき、紀要への投稿に関する必要事項を定めることを目的とする。

（投稿者）

第２条　投稿者は、専任教育職員とする。なお、専任教育職員が主たる研究者となって学外の研究協力者との共同研究を発表するときは、その旨を記して投稿しなければならない。

（初出原稿）

第３条　投稿する原稿は、未発表の学術論文に限る。

（査読及び掲載の可否）

第４条　投稿原稿は査読を経て、内容・形式などにおいて、紀要委員会が不適切であると判断したものは、その掲載を拒否若しくは修正を要請することができる。その場合には、委員長名で書面により通知する。

（原稿の形式）

第５条　原稿は、原則として、和文の場合は、400字詰原稿用紙（又は１行20字・20行の用紙）75枚又は30,000字以内とし、欧文の場合は、8,000 words 以内、中文は400字詰原稿用紙で50枚又は20,000字以内とする。なお、７行程度の、原則として英文の要旨（サマリー又はアブストラクト）及び索引語（キーワード）を付するものとする。

（１）　英文以外の題名には、英文の題名を付す

（２）　著者名には次のいずれかの形式を選び、アルファベット表記を付す。

Hanako SHOTOKU

SHOTOKU, Hanako

（３）　注は文中に入れずに、節・章・本文末のいずれかにまとめる。

（締切・刊行）

第６条　原稿の締切は、９月末日とする。

２　紀要の刊行は、２月末日とする。

（校正）

第７条　校正は、投稿者自身の責任で第三校まで行う。なお、校正は誤植の訂正にとどめ追加変更等は認めない。

（抜刷）

第８条　掲載論文については、抜刷30部を無償で交付する。

（保存）

第９条　掲載論文は、デジタル化し保存する。

（掲載論文のネットワーク上での公開）

第10条　掲載論文の公開については、別紙「紀要掲載論文公開同意書」に公開の可否を記入し、提出する。

（著作権）

第11条　掲載論文の著作権は著作者が所有するものとする。

（その他）
第12条　その他紀要投稿に関する必要な事項は、紀要委員会で定める。

附　則
1　この細則は、平成12年４月１日から施行する。
2　この細則の施行日をもって、紀要原稿募集細則（平成５年８月25日施行）は、廃止する。

附　則
この細則は、平成14年10月１日から施行する。

附　則
この細則は、平成15年４月１日から施行する。

附　則
この細則は、平成18年４月１日から施行する。

附　則
この細則は、平成20年４月１日から施行する。

附　則
この細則は、平成21年４月１日から施行する。

付記（申し合わせ事項）
印刷の体裁は次の３種類とし、投稿者がその一つを選ぶものとする。
（１）横書き１列　縦40行×横43字
（２）横書き２列　縦40行×横19字×２列
（３）縦書き２段　縦32字×横25行×２段